

## 2022年度事業報告書

特定非営利活動法人 藤沢ラグビー蹴球倶楽部

## 1. 事業の成果

## (1) 総括

当倶楽部の活動は定款に則り特定非営利活動に係る事業を中心に行った。当倶楽部の2022年度事業活動について、以下の通り報告する。

当倶楽部の特定非営利活動に係る事業は、定款第5条第1項に規定されているように、1) ジュニアラグビースクールの運営、2) ラグビークラブチームの育成・指導に係る事業、3) ラグビーフットボールおよびその他スポーツ競技の振興・普及に係る事業、4) 他の競技団体との協力・交流による競技者の能力向上及び育成に係る事業、5) その他倶楽部目的を達成するために必要な事業となっている。前年度に引き続き、依然として猛威を奮う新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、年度に予定していた多くの活動に制限を受けることとなった。

2020年にラグビースクール創設50年ならびにNPO法人化(倶楽部創設)20年を迎えたが、いまだ新型コロナウイルスによる感染被害を最小限に抑えるため、万全な対策を最優先しながら活動をしていく1年となった。

1) ジュニアラグビースクールの運営

ラグビースクール(藤沢ラグビースクール)は、生徒数300名、登録指導員数80名にて運営し、神奈川県下でも有数の生徒数を抱えるラグビースクールである。毎週1回(小3以上は2回)の練習は新型コロナウイルス対策のため、各学年でグラウンド、時間を分けて実施した。8月の夏合宿は規模を縮小しながら3年振りに開催し、ラグビーを通じた青少年の指導・育成は継続的に行っている。また、秋に開催された小3~中学のチームの県内ラグビースクールとの県大会では、各学年とも相応の成果をあげた。

2) ラグビークラブチームの育成・指導に係る事業

神奈川県ラグビーフットボール協会に所属するトップチーム(湘南プレイボーイズ)は、新型コロナウイルスの感染症対策を実施しながら活動を行った。春季の神奈川県大会、秋季の東日本トップクラブリーグに参戦した。新型コロナウイルス対策で他県への遠征が出来ないチームや、メンバーが継続的に集まれずリーグ参加をあきらめたチームがあったため、変則的な公式戦日程のシーズンを送らざるを得なかった。

シニアチームについては、定期的な練習を計画すると共に、メンバーを集めながらラグビーを通じて親睦を深め、マスターズ大会等への参加を目指しているが、今年度の活動は見送った。

3) ラグビーフットボールおよびその他スポーツ競技の振興・普及に係る事業

コロナウイルスの感染対策を行いながら藤沢ラグビーフェスティバルや藤沢市民大会へ参加し、また中学生は高校ラグビーフェスティバルの参加した。未経験の子供を対象にしたラグビー体験会を「スポーツ祭りふじさわ」等で実施した。

タッチラグビーは、湘南グラスボーイズ主催の独自大会を通じて、近隣のチームとゲームを通じて、振興・普及に努めた。

また(公財)藤沢市まちづくり協会主催の「タッチラグビー体験会」に講師として参加することで、普及活動を活性化した。

4) 他の競技団体との協力・交流による競技者の能力向上及び育成に係る事業

新型コロナウイルス対策が必須なため、倶楽部単独の活動に注力し、他団体殿交流は行わなかった。

5) その他倶楽部目的を達成するために必要な事業

例年行っている、地域や住民参加型のラグビーフェスティバルについては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から前年度に引き続き、開催を見送った。

また、タッチラグビー（湘南グラスボーイズ）はグラウンドを独自で確保しており、練習・独自開催大会の実施のために、安定したグラウンド確保に尽力している。さらに、この解決に向けて、倶楽部としても取り組むことが急務である。

## (2) 活動概要

### 1) ジュニアラグビースクールの運営

指導体制は昨年に引き続き、スクール校長の下に、ジュニアクラス（中1、中2～3）、ミニクラス（小3～4、小5～6）、ミルキークラス（幼～小2）の各学年にヘッドと指導員とを配置し、学年間での指導交流や合同練習をより推進できる体制とした。また、ミルキークラスについては、協力していただけの生徒の父母に「ミルキー応援団」になってもらい、ミルキーの活動をサポートする体制を継続することとした。

ラグビースクールの活動については、グラウンドでの練習実施時もカテゴリ毎に練習時間や場所を分けるなど、制限はあったが感染予防に努めながら活動を実施した。

函館ラ・サール中学校、および北斗市からお声がけ頂き、中学3年生を対象に北海道遠征を挙行了。函館ラ・サール中学校、函館ラグビースクールとの交流戦だけでなく、農業体験(大根収穫のお手伝い)含む充実した遠征となった。

多くの大会、イベントが再開され、10～11月に開催された県大会では中学Aチームは3位、ミニ各学年とも夏合宿を含め春からの練習の生花を存分に発揮した。

3月5日には昨年同様規模を縮小して卒業式を実施し、第47期生20名を送り出すことができた。

### 2) ラグビークラブチームの育成・指導に係る事業

神奈川県ラグビーフットボール協会に所属するトップチーム（湘南プレイボーイズ）は、ラグビースクールOBが将来「藤沢」に戻って来るための場所として設立されたチームである。全国クラブラグビー大会へ出場し、クラブ選手権を制覇することを究極の目標としながら、仕事や家族サービスに追われる日常から暫し離れて、大好きなラグビーに没頭するため、週末にグラウンドに集まって無心にボールを追いかけている。ラグビースクールOBが帰るための場所として創設されたが、リクルート活動の成果もあり、スクールOB以外のラグビー経験者やトップリーグ経験者が加入することによって、多彩な選手が集っている。春季の練習試合及び神奈川県大会を通じて、主要な選手に大きなケガが続出したため、チーム力の成熟に時間が取れず、未完成のまま試合をせざるを得ない事態が繰り返された。今年度の東日本トップクラブリーグはリーグ参加辞退チームが続出し、所属するDivisionⅢでは3チームしか参加出来なかったため、ホームアンドアウェイ形式で2試合ずつ計4試合を行う運営となった。結果2勝2敗で準優勝となった。東日本トップクラブリーグで2勝以上するのは、チーム史上初めてのことである。とはいえ、惜しい試合をいくつか落としてしまったことで、次シーズンに向けて更なる成長をメンバー全員心に誓う一年となった。

### 3) ラグビーフットボールおよびその他スポーツ競技の振興・普及に係る事業

例年藤沢市ラグビーフットボール協会、神奈川県ラグビーフットボール協会、関東ラグビーフットボール協会等の主催するラグビーの振興と普及を図る活動に、積極的に参加、協力を行っているが、本年度はいずれも開催が見送られた。

タッチラグビーは、日々の練習において、内容の濃い練習を行うことが出来ており、10代から70代までの幅広い参加者が同じグラウンドでプレーできる内容となっている。6月に開催された全日本タッチオープン選手権はオープンクラスで念願の日本一を獲得、11月に開催された全日本タッチ選手権は他チームに追われる立場で決勝トーナメント敗退となった。

### 4) 他の競技団体との協力・交流による競技者の能力向上及び育成に係る事業

新型コロナウイルスの影響により、従来活動を行わなかった。

### 5) その他スポーツを通じた地域活動

毎年恒例のラグビーフェスティバルを3月に予定していたが新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、昨年度に引き続き今年も中止とした。本フェスティバルは、地域住民との交流やラグビーフットボールへの理解を深めることに効果があり、地域住民の参加者も多く、参加者の中から、ラグビースクールへの入校者も出て、ラグビーフットボールの振興普及に対して有効であるため、今後も継続して

実施して行く。また、12月に地域交流の一環として参加している辻堂砂山児童館祭の開催も中止された。

#### 6) NPO法人としての社会貢献活動や安全対策強化

2000年にNPO法人化して以降、特定非営利活動法人格を持つラグビーチームとして、社会貢献活動への協力についても積極的に取り組んでいる。「乳がんの早期発見及び乳がん検診の啓発運動（ピンクリボン運動）」を推進しているNPO法人J. POSHの活動に協賛し、倶楽部としてピンクリボン運動のロゴマークをジャージに貼付する等、活動を継続している。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止を最重点課題とし、夏合宿やフェスティバル等の行事の中止、試合や練習の活動見直し、オンライントレーニングの継続、また、グラウンドで活動する際にはマスクの着用、体温測定、三密の回避等を徹底した。その他、安全対策として、倶楽部でAED（半自動除細動器）を所有し、心停止状態発生の緊急事態に備え、活動中常備することとした。夏場の熱中症対策として、給水の徹底に加え、携帯用噴霧器で体熱を下げる工夫をしている。

#### 7) 広報活動の強化

倶楽部を運営する理事長、副理事長及び専務理事を含む理事会メンバーが新体制となって2年目を迎え、各ディビジョンが抱える課題や問題点について理事会で取り上げ、組織横断的に解決に向けて取り組みを行った。その状況等について「ラグビー藤沢」を発行し、情報を共有した。

各部門からの情報発信に対して様々な方面からの反響があり、特にスクールのリクルートツールとして入校関連の問い合わせが寄せられている。今後とも「スポンサー企業様への活動報告ツール」、「在籍する正会員やOB・OGへの情報発信ならびに活動報告ツール」としての側面もあわせ、活動を内外にアピールしていく。

昨年度も、神奈川県ラグビーフットボール協会・各自治体関係をはじめとするラグビー各イベントや広報紙へ倶楽部の広告を掲載し、活動をアピールしている。

また、ラグビースクールやトップチームでは、SNS（Facebook）を活用して、タイムリーな活動報告を行っている。トップチームでは、Facebookの他、メンバー個人のInstagramを通じて、リクルート活動にも一定の成果が出ている。また、メッセージアプリ（LINE）をチーム内の連絡や情報共有に活用する他、グラウンドレベルでの活動から縁遠くなったOBへの情報提供を行った。

タッチはFacebookを活用して魅力を訴求し、メンバー増加につなげている。

#### 8) その他倶楽部の目的を達成するための事業

数年来、倶楽部として解決すべき大きな課題として、優先的に利用できる活動場所を確保することである。藤沢市内の公共施設の使用がインターネットによる抽選制となったこと、また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、使用できなくなる施設が増えたことにより、活動の拠点となる場所の確保が極めて困難な状況にある。昨年度、新体制理事会において、様々な検討やロビー活動を行ったことにより、今年度から、善行スポーツセンターを第二優先枠として、継続的に使用することが出来るようになった。また、株式会社神戸製鋼所のご厚意により湘南事業所のグラウンドをお借りしての練習がスタートした。また、メインスポンサーであるNOKの藤沢事業所にて小学生の練習会を開催する事も出来た。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、従来の活動を制限して実施せざるを得なかったが、一定の条件の中でもラグビーを楽しむ選手の明るい声が前年度に増して聞こえる様になった。

#### (3) 本年度会員数、各事業登録者数

以上の活動を支える当倶楽部の会員数は、2023年3月末時点で下記となっている。

正会員	140名
個人賛助会員	0名
法人賛助会員	0社

また、各事業活動の登録者数は下記の通りである。

ラグビースクール：	生徒数	319名
	指導員数	80名
トップチーム	：	40名
タッチチーム	：	30名
シニアチーム	：	40名

以上

2. 事業内容

(特定非営利活動に係る事業)

事業分類

- ① ジュニアラグビースクールの運営(定款第5条第1項第1号に係る事業)
- ② ラグビークラブチームの育成指導に係る事業(定款第5条第1項第2号に係る事業)
- ③ ラグビーフットボールおよびその他スポーツ競技の振興普及に係る事業(定款第5条第1項第3号に係る事業)
- ④ 他の競技団体との協力・交流による競技者の能力向上及び育成に係る事業(定款第5条第1項第4号に係る事業)
- ⑤ その他倶楽部の目的を達成するための事業(定款第5条第1項第5号及び同条第2項に係る事業)

カテゴリ	事業計画	事業分類	実施日時	実施場所	従事実人数	受益対象者範囲と人数	支出額(千円)	活動実績と結果
ラグビースクール	1 地域における4歳から18歳までの少年、少女を対象としたラグビーの技術的・精神的指導	①	毎日曜日 一部は土曜日も実施	辻堂海浜公園、秋葉台 球技場ほか	約80名	幼児～中3 約300名	登録:927 用具:978 グラウンド:971 保険:446	
	2 春合宿	①	5月	山梨県 山中湖	約20名	中2～中3 約60名	1,016	
	3 静岡県ヤマハララグビースクールとの交流	①	6月	静岡県	約20名	小5、小6 約70名	405	
	4 北海道遠征	①	7月	北海道 北斗市 菅平高原	8名	中3 16名	1,336	
	5 中学菅平ジャンボリー参加	①	7月	山梨県 富士緑の休暇村	約20名	中学生 約75名	2,084	
	6 夏合宿練習	①	8月	山梨県 富士緑の休暇村	約50名	小3～小6 約150名	3,306	コロナ対策のため 小3～4=1泊、小5～6=2泊の 分散開催
	7 他スクールとの交流大会参加	①	4～3月	神奈川県内	約20名	中学生 約80名	240	
	8 中学3年生卒業式	①	3月	神奈川県内	約80名	幼児～中3 約300名	26	
	9 コーチ、レフェリー、メディカルサポーター等指導監督者の育成プログラムへの参加	①	随時	神奈川県内	約50名	中3 20名		
	10 C級レフェリー資格試験	①	3月	神奈川県内	約80名	約80名		
	11 女子チームの育成指導	②	4～3月	神奈川県内	約3名	3名		
	12 ガールズフェスティバル参加	②	随時	神奈川県ほか	数名	約20名		ラグビースクール活動の範囲 内で実施
	13 藤沢市ラグビーフェスティバル参加	③	7月	秋葉台球技場	数名	約20名		海老名ガールズフェスティバル他
	14 藤沢市民大会参加	③	9月	秋葉台球技場	約40名	約120名		ミルキー、ジュニアクラスで 参加 (茅ヶ崎RS、湘央RSを招待)
	15 ラグビーフェスティバルの開催	③	3月	辻堂海浜公園	約60名	約200名		ミニで参加 (横浜RSを招待)
	16 ラグビースクール交歓運動会	③	12月	大和市	約80名	約600名		新型コロナの影響で未実施
	17 はじめてのラグビー一斉体験会	③	4月	辻堂海浜公園	約60名	約250名		
	18 中学3年生卒業文集作成	③	3月	倶楽部事務所	数名	会員、生徒		ラグビースクール活動の範囲 内で実施
	19 高校ラグビー部フェスティバルへの参加	④	6月	各高校グラウンド	約15名	中学生約20名		
	20 ミルキークラス地引綱	④	6月	藤沢市	約60名	幼児～小2 約150名		新型コロナの影響で未実施
	21 湘南カップ(ミルキークラスの交流大会)	④	2月	神奈川県内	約30名	幼児～小2 約300名		近隣の8スクールを招待
	22 クラブハウス草刈	④	8月	藤沢市	約20名	約20名		
	23 辻堂砂山の家児童祭りへの参加	④	12月	藤沢市	約40名	約20名		新型コロナの影響で未実施

カテゴリ	事業計画	事業分類	実施日時	実施場所	従事実人数	受益対象者範囲と人数	支出額(千円)	活動実績と結果
プレイ ボーイズ	1 トップチームの育成指導	②	毎日曜日	秋葉台球技場ほか	約40名	約40名		楽しく、強くなるチームづくり
	セブンス大会	②	3月	藤沢市	約40名	約40名		
	神奈川県大会	②	4月～7月	神奈川県内	約40名	約40名		
	東日本トップクラブリーグ	②	10月～12月	神奈川県内、東京都内、千葉県内	約40名	約40名		
グラス ボーイズ	1 練習	③	毎土曜日	辻堂海浜公園	約30名	約40名		新型コロナの影響で規模縮小実施
	2 千葉大会	③	5月	千葉県	約14名	約200名	10	新型コロナの影響で未実施
	3 全日本大会	③	6月	千葉県	約14名	約300名	20	メンズオープン部の優勝
	4 湘南大会	③	9-2月	親水公園	約40名	約100名		規模縮小で実施
	5 東京都大会	③	9月	東京都	約20名	約200名	20	新型コロナの影響で未実施
	6 World Masters League	③	10月	徳島県	約20名	約300名	0	新型コロナの影響で未実施
	7 神奈川大会	③	秋	親水公園	約14名	約150名	10	
	8 全日本大会	③	11月	千葉県	約14名	約300名	20	
	9 宮城県タッチ協会支援	③	3月	フットメッセ長町	1名	約150名	0	新型コロナの影響で未実施
その他	1 倶楽部広報紙の発行(広報・普及活動)	③	6月、10月	倶楽部事務所	数名	会員、一般		PDF版、印刷版を作成 会員、RS生徒、その他関係者に配付
	2 HPの運営(広報・普及活動)	③	随時	倶楽部事務所	数名	会員、一般		
	3 地域清掃活動	④	4月～3月	藤沢市	約20名	約20名		クラブハウス周辺の清掃
	4 ピンクリボン運動への参加	④	通年	神奈川県	11名	約500名		ラグビージャージにピンクリボン運動のロゴマークを貼付
	5 新規活動場所の開拓	⑤	通年	藤沢市	約10名	会員、スクール生		以下施設の利用を開始 ・NOK湘南事業所 ・県立スポーツセンター ・神戸製鋼所